

奥只見 道行山～百草の池

池田

【日時】2007年4月7日 (土) 【メンバー】L藤本、池田

天気は快晴。石砲橋から白沢に沿って林道を進む。支流を2つ超えた辺りで休憩。復路に白沢を滑れたらいいな、と思いつつ、白沢の様子を観察する。しかし、下流とは言え沢は完全に割れ、ブリッジの一つも無い。白沢滑降は断念。道行山経由で稜線沿いに百草の池を往復することにした。

白沢河岸から離れ、尾根に取り付いて道行山を目指す。道行山へ北上する尾根まで来ると、感じのよいブナ林が広がっていた。ここを滑ってくるのは楽しそうだなあ～♪と期待しながら、道行山山頂へ到着。ここから、小倉山との間の鞍部へいったん滑り込み、小倉山山頂を巻いて南西へ伸びる稜線を伝う。稜線にはスキーとスノーシューのトレースがいくつもあった。左前方には白沢の源頭が見える。その源頭が突き上げているところが百草の池。その先には標高差約150mの斜面がそびえており、たくさんのシュプールが刻まれている。シュプールは日光に反射してキラキラとてかっていた。シュプールがてかっているのを見ると、春なんだな、と思う。その斜面の背後には、駒ヶ岳。

百草の池に1時半到着。そそくさと準備を終え、滑降開始。雪は重く、最初の1本は思うようにいかない。それでも滑るうちに、何となく要領を得る。斜面はスキー滑降向きとは言い難い。でも、その分登りが楽で展望が良かった。

小倉山と道行山との間の鞍部でスキーを担ぎ、歩いて道行山山頂へ登る。頬が陽にやけてジリジリする。こんな時にリーダーは、プラティパスの水を漏らしてしまい、黄砂にまみれた雪で水分補給していた。私が持っていたウーロン茶を、1ml=1,000円で売ってあげましょうと申し出たのに、拒否された。戦後、闇市で食料を買うのを拒否して亡くなったという人の話を思い出した。



道行山からのブナ林滑降は、予想通り爽やか。最後は往路で取り付いた尾根より1本東の尾根を下って、河原へ降りることにした。この尾根では滑るたびにスラフ雪崩が起きる。水分を含んだ重い雪のかたまりが、10cmくらいの厚さでゆっくりと流れ落ちて行った。

河原に出て、白沢沿いの林道を再び銀山平まで戻る。林道には、朝には無かった、中規模の雪崩の跡があった。タイミングが悪かったら、この雪崩に押しつぶされていたかもしれない。慎重にデブリを横切った。

【行程】銀山平 (7:00)～道行山(11:00)～百草の池(1:34)～銀山平(5:00)

【地図】八海山、奥只見湖